

9月9日（金） 賛助会員発表 第2室（249）

CASEC と英語力評価

CASEC and Assessment for English Proficiency

1. はじめに

本研究の目的は、CASEC Computer テストを利用して英語力の測定を行い、英語教育の到達目標を定めて、英語教育にどのように feedback していったらよいかである。この研究では、CASEC テストの信頼性、妥当性を過去の実例から検討し、青山学院大学ならびに茗溪学園中学校高等学校における2つの実用例を示しながら、コンピュータテストを利用した英語教育に関して述べる。

2. CASEC (Computerized Assessment System for English Communication) の概要

CASEC はコンピュータを利用した、英語コミュニケーション能力測定テストで、適応型テスト (CAT-Computerized Adaptive Testing) と呼ばれるものであり、テスト施行中にコンピュータが提示問題ごとに受験者の能力を推定し、そのつどアイテムバンクと呼ばれる問題データベースから、その受験者に最も適切な問題を選択しながらテストを進めていく方法をとっている。CASEC は、①語彙、②会話表現、③リスニングでの大意把握、④ディクテーションによる具体的な情報の聞き取りの4つのセクションから構成されており、受験時間は30分～40分程度である。CASEC の優れた特性としては下記の4点が挙げられる。

- a. 短時間で効率的な能力判定
- b. 受験後すぐに結果がわかる即時性
- c. インターネット環境があればどこでも受験可能
- d. 項目応答理論 (IRT) した共通尺度による測定

CASEC では従来の素点を基礎とした評価（合計点/平均点/偏差値など）では実現不可能であった、受験者集団やテスト問題などに依存しない「絶対尺度の評価」を可能としたIRT理論を採用しているため、受験者の能力を絶対尺度上で測定することができる。CASEC は平成16年度末現在でのべ約20万人が受験しており、企業の採用試験時の英語力判定、大学・短大・英会話学校でのプレイスメントテストや習熟度テストとして使われており、最近では中学・高校でも英語評価の1部としてCASECをご採用いただいている。

3. 仮説：

- (1) CASEC テストを利用することにより、より準則に英語力を測定でき、英語学習におけるモチベーションを高めることができる。
- (2) 英語教育の到達目標を定めることで、より効果的な教育を行うことが可能になる。

4. 方法と結果：

4.1 茗溪学園中学校高等学校の例：

- (1) 導入の目的：CASEC を、生徒自身に英語力の伸びを確認させて英語学習の動機づけとすること、また教員側で生徒のスコアの伸びを把握してカリキュラムの改善に生かす、という2つの大きな目的で、2003年7月に導入を決定した。
- (2) 利用方法：CASEC を成績評価には利用しておらず、毎年7月（中2～高3）、12月（高3）、2～3月（中1～高2）に定期的に全員に対してCASECテストを実施している。試験の際には生徒自身にスコア履歴によって自分のスコアの伸びを確認させ、また各学年・クラスごとにスコ

ア分析を行いカリキュラムの改善に生かしている。

(3) スコア分析の結果:本校では TOEIC Bridge® / TOEIC® テストを資格試験として生徒に受験させている関係上、CASEC テストの TOEIC 換算点も利用してスコア分析を行っている。

a. 各学年の平均スコア: 各学年、中学1年の2月から高校3年の12月までのスコアを把握することができた。これにより、各学年間の力の差が分かり、教員にとっても到達目標をはっきりと把握することができる。

b. 各学年の一定期間での力の伸び: 各学年の一定期間での語彙・会話表現・聴解・書取りの各分野の伸びを比較したところ、聞く力は高校生よりも中学生の方が大幅に伸びることが分かり、早速中学に新たにリスニングプログラムを追加した。また高校生は語彙や文法の面で中学生よりも伸び幅が大きい傾向があることも分かった。

c. 大学入試との関連: 高校3年生の CASEC テストの TOEIC 換算点と、大学入試センター試験の英語の点数、及び各生徒の大学合否結果との関連性を調べたところ、ある一定の傾向が見られた。(2005年1月のセンター試験の英語の点数との相関係数は、2004年7月の TOEIC 換算点とは 0.763、2004年12月の TOEIC 換算点とは 0.813 であった。) これらの結果は教員が生徒の力を把握して指導する際に役立つのはもちろん、提示の仕方に気をつければ生徒達の到達目標を明らかにすることができ、英語学習の動機づけとなる。CASEC は教員の負担も少なく手軽に実施できることから、様々な場面で利用してスコアを分析し、生徒の英語力の傾向を見ることに活用している。(詳細は発表で報告)

4.2 青山学院大学経済学部の場合:

(1) CASEC を 120 名の学生を対象に、pre-test(4月)と post-test(1月)実施して、伸びを測定した。559.9 点から 603.9 点まで伸びた。(5%検定有意差あり)

(2) CASEC テストを実施した後で、テストに関するアンケートを 2 度実施して受験者からの反応を調べた。(発表時に詳細は報告)

(3) CASEC650 点を境に、英語によるプレゼンテーションを評価して、学習者の英語力の伸びを測定した。

(4) CASEC の得点と比較しながら、英語の Prosody 分析を行った。CASEC650 点以上の学生の平均値は、650 点以下の学生の平均値よりも Fo range、音声パワーが大きく、より英語らしく発話をしていたことが判明した。CASEC の得点によって、英語における発表能力の差も把握でき、650 点を英語教育の到達目標とすることにより、学習者がより具体的な目標を絞って、英語力をつけようとする傾向が、CASEC テストの結果とアンケート調査から分かった。

5. 結語

2つの事例から分かるように、CASEC テストを様々な場面で利用することにより、学習者の英語力を即座に判断し、英語力の目標設定や、英語学習への動機づけになり、CASEC の得点を上手に利用することにより、英語での発表力や、prosody 分析を通して、より英語らしい発話への指導に大いに利用できることが判明した。

参考資料

CASEC TEST 株式会社教育測定研究所